

## 43. 課題探求学習「ライフサイクルと健康」授業後の初年次看護学生の学び

山脇京子<sup>1)</sup>青木早苗<sup>1)</sup>安川和希<sup>1)</sup>藤田倫子<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>高知大学医学部看護学科

**【はじめに】**課題探求学習は、看護実践能力育成の基盤であり、看護学教育における教育の質の担保と向上のためには重要な課題のひとつである。当看護学科では、平成20年度から1年次1学期に課題探求学習による「ひとのライフサイクルと健康」(以下「ライフサイクル」という)という授業科目を開講した。本授業の目的は協働への関心と主体的に探究する力を養うという課題探求学習を用いて「ライフサイクル」を、看護学の視点から考えることである。研究目的は、課題探求学習と「ライフサイクル」に対する看護学生の授業終了後の学びの内容を明らかにし、今後の課題について考察することである。研究の意義は、課題探求学習と「ライフサイクル」に対する看護学生の授業終了後の学びの内容を基礎資料として、今後の授業検討の示唆を得ることである。用語の定義は「課題探求学習」とは、少人数グループにより学生が主体となって、規定のシナリオを用いて、学習課題を探求することである。「ライフサイクル」とは、看護学および看護実践を行う対象者を人の発達理論を用いて捉えることである。

**【方法】**研究対象:A 大学医学部看護学科平成20年度入学生58名。調査期間:平成20年7月。研究方法:質的帰納的研究。調査内容:①課題探求学習の習得に関する学び、②ひとのライフサイクルと健康に関する学び、③今後の課題を自由記述してもらおう。分析方法は①②③それぞれに関して質的統合法(KJ法)により分析。倫理的配慮:学生全員に口頭による説明をし(成績に関係しない、個人の特定が出来ない処理など)同意を得た。

**【結果】**①「課題探求学習」に関する学びの内容は、[問題解決のプロセス][多角的視野で物事を捉える][グループの協働][話し方・聞き方][自己と他者][物事を深く探求する][自ら学ぶ]の7つのカテゴリーが抽出された。②「ライフサイクル」に関する学びの内容は、[それぞれの発達段階と発達課題がある][人の死][家族のつながりや支え][人の理解][個別的な問題][生活背景]の6つのカテゴリーが抽出された。③今後の課題は、[今後の学習活動への活用][困難に取り組む姿勢][人との協働][看護専門職として][よい援助を行なうための決意・展望][物事の見方・捉え方]の6つのカテゴリーが抽出された。

**【考察】**本授業における学生の学びは、「課題探求学習」を用いた「ライフサイクル」において、課題探究の方法と必要性、発達段階と発達課題の概要について、学習体験を通して体験的に捉えることができていた。学生は、現時点での自己の学びと自己の課題の概要についても明らかにしていた。今後は、さらに、学生の到達状況を基に、適切な・妥当性のある到達目標の基準をつくるための継続検討が必要である。

**【まとめ】**「課題探求学習」、「ライフサイクル」の学習内容は、看護学士課程教育の基盤である。4年間のカリキュラムのなかで、両者の教育内容の整理・精選を行い、教科目毎に、具体的な到達目標を明示すること、および教授・学習活動の評価作業が急務であることがわかった。